

備えあればこそ - 危機管理意識を高める -

校長 黒澤 一慶

2学期が始まりました。児童・生徒の元気な明るい笑顔が戻ってきました。2学期は、1年の中で一番期間が長くなります。保護者並びに七生福祉園の職員の皆様におかれましては、様々な教育活動に引き続き御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、夏休みに入って熊本県を中心に発生した大地震や8月に千葉県で発生した豪雨により、私たちは、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしました。これらの災害により多くの方々が亡くなりました。心より哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。一日でも早く平穏な日々が戻ることを願ってやみません。

1学期末に発行した学校だより第5号において、大規模災害時における普段からの様々な備えがとても大切である趣旨の話題を載せました。その矢先に大規模な災害が発生し、他人事とは思えませんでした。

学校では、この夏季休業中に教職員を対象に「防災教育講演会」を開催し、万が一の際の対応力向上を図るために、発災時の福祉避難所運営シミュレーション訓練を実施しました。本会には、地域関係者や本校PTAの代表の方にも御参加いただき、同様の訓練を体験していただきました。

現代は、いつどこでどのようなことが起きるか全く予測ができない時代であることは、言うまでもありません。私たちは、目の前で想定外の出来事が発生した際、想定していなかったから対応できないというわけにはいきません。学校には、児童・生徒の健康や安全を守る責務があります。事故や災害が発生した際に、教職員がどのような意識をもち、どのように行動すればよいのか、今後も定期的に研修を実施し、危機管理意識を高め、安全で安心できる学校づくりを進めてまいります。

最後にお知らせがあります。今年度進めている2つの大きな工事のうち、校舎屋上の太陽光パネル設置工事が無事終了しましたので御報告いたします。裏山の補強工事は来年2月頃までの予定で継続中です。学校へお越しの際は安全に御留意くださいますよう、引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

#### 「防災力の向上と自助・共助」

生活指導担当主幹教諭 福田 晃

本校では、学校や地域の実態に応じた防災教育の充実を図るため、体験的・実践的な取組を進めています。7月には、高等部1年生を対象に、過去の震災を知る、発災時に必要なことを考え、体験する「防災学習の日」を設定するとともに、また、教員対象の避難所設営訓練や、防災教育講演会を実施しました。

防災教育講演会では、一般社団法人防災教育普及協会の宮崎賢哉氏を講師に、本校に福祉避難所が開設された想定でシミュレーション訓練に取り組みました。訓練では「避難所運営ゲーム(HUG)」を活用し、災害時に想定されるさまざまな課題について、具体的な場面をもとに考えました。

- ☒ 障害のある方やその御家族が安心して過ごせるスペースの確保は？
- ☒ 支援物資の受付・保管・配布場所は？
- ☒ 情報収集、発信の方法は？
- ☒ 授乳やおむつ替えのための場所は？
- ☒ 車で避難した方への対応は？

参加した教員は次々に提示される状況に対し、どのように受け入れ、安全と安心を確保していくかをグループごとに話し合いました。意見を出し合う中で、平時から準備しておくべきことが具体的に見えてきました。

当日は、市障害福祉課担当者、多摩療護園職員、本校PTA役員の皆様にも御参加いただきました。今回の学びを学校全体で共有し、いざという時に教職員が力を合わせ、落ち着いて対応できる体制づくりを進めてまいります。